

**カーボンフットプリント
の取り組み**

2012年10月19日

**株式会社リコー
社会環境本部
則武祐二**

「環境」と「経済」は対立するという考えがあるが、それ以前に、

第1に、社会・経済の営みを地球が許容できる環境負荷の範囲以内におさめることが大前提であり、

第2に、環境と経済が両立できるように、社会システム、ライフスタイルおよび企業活動を構築することが大切である。

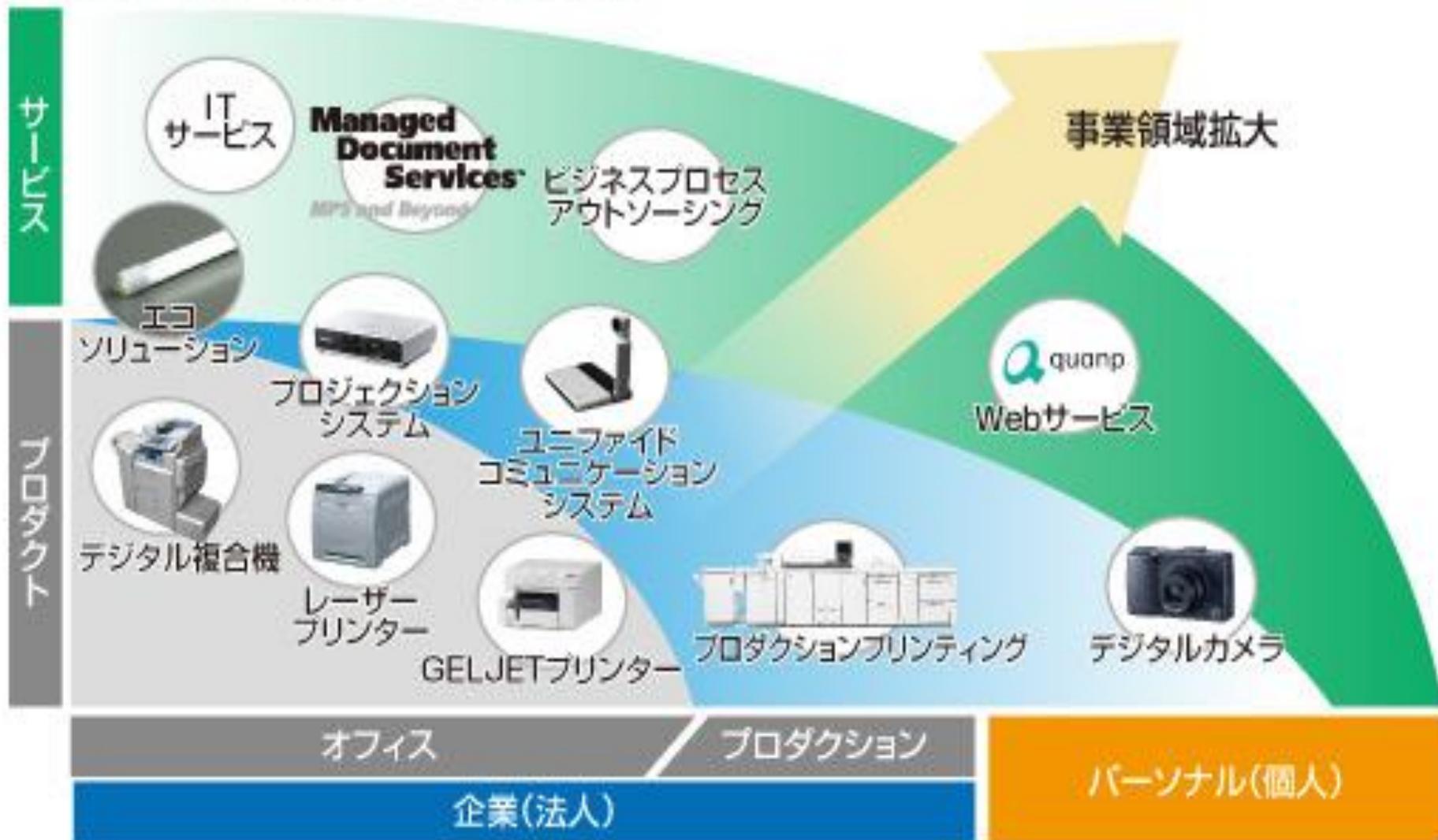
その中で、今後企業は**高い環境目標**を掲げ、達成するために、

- ・**生産プロセスの革新**や製品に対する**環境技術開発**の取り組みを加速し、**環境負荷低減**と共に、
- ・**省資源、省エネルギー**による**コスト削減**と**製品の競争力向上**につなげていくことが重要となる。

桜井 正光

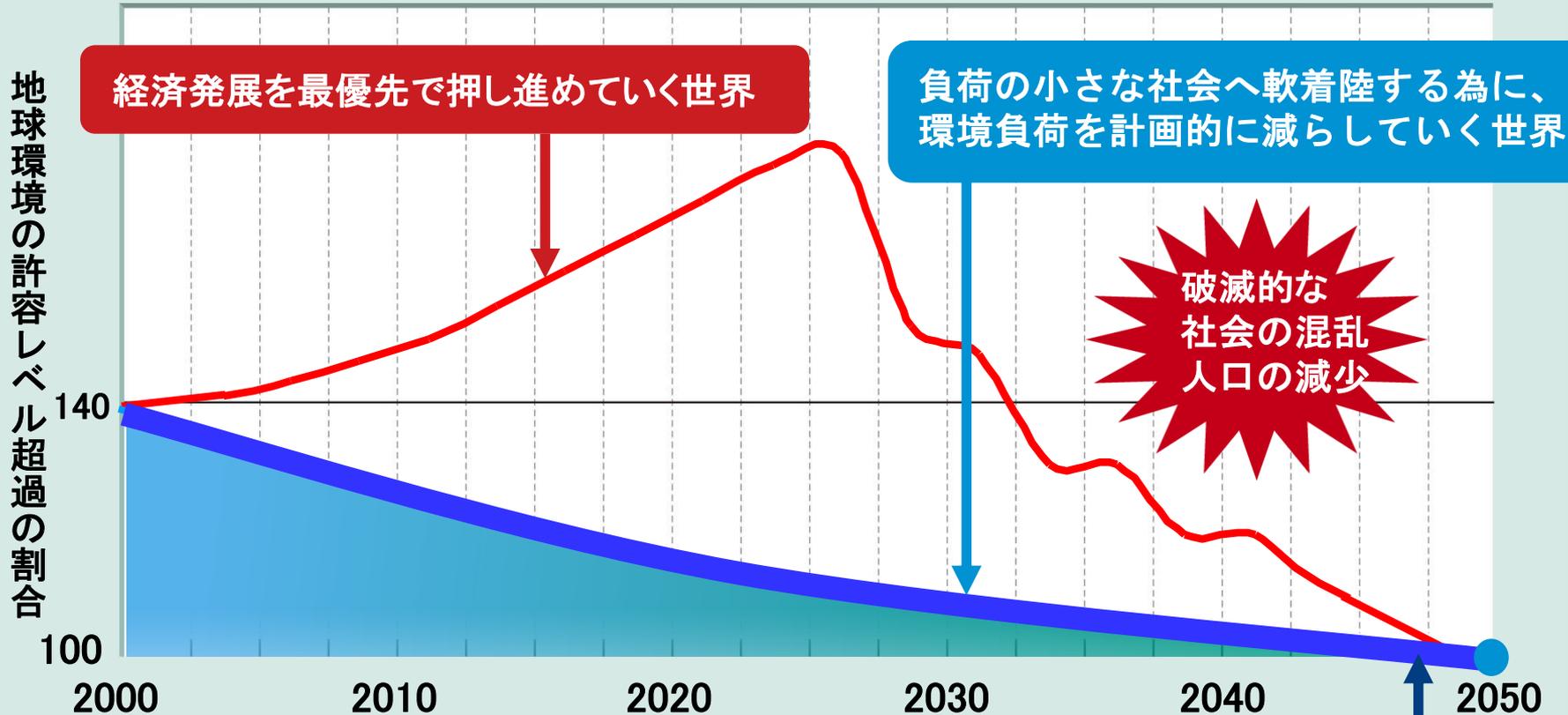
リコーグループの事業領域拡大

フルラインアップ(製品・サービス領域)図



地球の環境負荷が削減されるシナリオと企業の成長

早期に対策を開始しないと2050年までに地球環境影響の許容レベルに至らない



経済発展を最優先で押し進めていく世界

負荷の小さな社会へ軟着陸する為に、環境負荷を計画的に減らしていく世界

破滅的な
社会の混乱
人口の減少

社会のあり方の大きな変革が必要
社会の変化を促進する為、又は、ルールとして規則は必須

環境影響が
許容レベルに
なった社会

(1)省エネ・温暖化防止

リコーグループライフサイクルでのCO2排出総量(5ガスのCO2換算値を含む)を、2000年度比で2050年までに87.5%、2020年までに30%削減する。

(2)省資源・リサイクル

- ①新規投入資源量を 2007年度比で2050年までに87.5%、2020年までに25%削減する。
- ②資源枯渇の動向を視野に置きつつ、製品を構成する主要素材のうち、枯渇リスクの高い原油、銅、クロムなどに対し、2050年を目処に削減及び代替の備えを完了する。

(1)省エネ・温暖化防止

リコーグループライフサイクルでのCO2排出総量(5ガスのCO2換算値を含む)を、2000年度比で2050年までに87.5%、2020年までに30%削減す

(2)省資源・リサイクル

- ①新規投入資源量を 2007年度比で2050年までに87.5%、2020年までに25%削減する。
- ②資源枯渇の動向を視野に置きつつ、製品を構成する主要素材のうち、枯渇リスクの高い原油、銅、クロムなどに対し、2050年を目処に削減及び代替の備えを完了する。